

意見書

令和6年8月16日

北九州市食肉センターの今後のあり方検討会 様

『北九州市食肉センターの今後のあり方検討会』の構成員ならびに事務局の皆様方が北九州市食肉センターの未来を思い、検討会で真摯に取り組まれている姿を資料で拝見いたしました。

敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

このたび提示されました第2回の今後のあり方検討会議事録ならびに関係資料について、下記のとおり、意見書を提出させていただきます。

記

今回の検討会で、問題構造をポジティブな視点からとネガティブな視点から分析する資料を拝見しました。我々協議会も各社の役割の確認や業務改革を目指したWGを既に立ち上げ、検討会の皆様よりご意見いただいている項目を否定することなく享受し、ポジティブな視点から整理しているところです。

今後、検討会でご意見いただいております『将来にわたる安定的な搬入規模』や『外部からの参入も含む強固な運営組織体の設立』を含めて、「北九州市食肉センター変革協議会」を中心としたコンソーシアムで具体的な計画を時系列的に可視化しながら、北九州市保健福祉局様のご指導の下、一般財源からの繰入金削減のため食肉センターの健全な運営継続に向けて、民間の知恵を活かし、官民一体で取り組んでいく所存です。

北九州市食肉センターは、市民の税金による補填に相応しくない公共施設であるように捉えられているようです。先人より北九州広域圏内住民への食肉事業を継承し担ってきた事業者として、僭越ながら申し上げますと食肉事業を通じて市民への安全な食肉の提供、雇用創出、地域社会への貢献等寄与してきたとの矜持もあります。

毎年度、老朽化した施設の改修を陳情しております。財政的に困難であるとの回答に北九州市様のご労苦を少しでも軽減するために、事業者負担にて令和元年と令和4年に合計3千355万円相当の施設整備をさせていただきました。

※資料1 参照

事業者側の拙い努力もご理解いただければ幸いです。

最後に、現在北九州市食肉センター内には、各事業者ならびに関係企業従事者が167名従事しています。協議会内すべての経営者は、「作業従事者の危険又は健康障害を防止する」そして「北九州市で働く雇用を守る」責務があります。

この北九州市食肉センターにおいても、昨年5月25日に施設の老朽化に伴う「牛体の落下事故」が発生しました。

※資料2 参照

言うまでもなく、構成員、事務局の皆様にご迷惑をおこがましいと躊躇しましたが、「災害をなくすためには事故を防ぐべきで、事故を防ぐには不安全行動や不安全状態をなくせばよい。」との理論である『ハインリッヒの法則』を協議会内で再確認した次第です。

北九州市食肉センター内で働く従事者の安全と衛生を守るため、日々重大事故に至らなかった軽微な事故や、その背後にひそむ事故寸前だった異常を見逃すことなく、且つ疎かにすることのないよう、北九州市保健福祉局様と今後も未来を見据えた協議を続けて参ります。

北九州市食肉センター変革協議会

会長 宮下 博文